

松下幸之助 — 人を育て、人を活かす

「この会社は何のためにあるのか」 — 使命を宣言し、共有する

創業者は、「事業経営において、一番根本になるのは、正しい経営理念であり、それが根底にあってこそ、人も技術も資金もはじめて真に生かされてくる」と述べている。

当社の経営理念は、1932年（昭和7）5月5日、創業者が大阪の中央電気倶楽部に当時の全店員を集めて説いた、「松下電器が将来に向かって果たしていくべき真の使命」にある。

「この世の貧乏をなくし人々を幸せにするためには、生産に次ぐ生産によって物資を豊富に生み出すことである。そこに我々の尊い使命がある」と、会社は何のために存在するのかということをも信念と熱意をもって訴えた。そして、その使命を達成するための遠大な『250年計画』を発表した。企業の存続を250年という期間でとらえ、25年を一節とし、それを10節にわたって繰り返すことにより、この世の中を物心ともに豊かな社会にしていこう、と訴えたのである。



1932年（昭和7）
真の使命を宣言し、共有した第一回創業記念式

後年、250年の根拠を問われた創業者は、次のように答えている。

「当時は人生50年という時代で、一人の人が社会で働く期間が平均すると25年ぐらいでありましたから、それを10世代続ければと考えたわけです。250年計画には、自分たちの世代だけでなく、次の世代、そのまた次の世代にこの真使命達成を受け継いでもらいたいという願いが込められていました」



1981年（昭和56）
創業命知50年の創業記念式（50回目）

創業者のこの力強い宣言に、会場は大変な興奮に包まれ、全員の力を結集してやれば『必ず使命は達成できるのだ』という力強い信念が、一人ひとりの心に生まれたのであった。